

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市自殺対策協議会		
事務局 (担当課)		精神保健福祉課 電話042-769-9813 (直通)		
開催日時		令和4年7月7日(木) 午後3時～午後5時		
開催場所		消防指令センター 4階 講堂		
出席者	委員	17人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	7人(地域包括ケア推進部長、他6人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		(1) 相模原市の自殺の状況について (2) 第2次相模原市自殺総合対策の推進のための行動計画の進行管理と自殺総合対策の推進について ア 庁内の取組状況について イ 関係機関・団体等の取組状況について (3) 第3次相模原市自殺対策総合対策の推進のための行動計画策定の検討方法について (4) 市民アンケートの調査結果について (5) その他		

議 事 の 要 旨

(1) 相模原市の自殺の状況について

精神保健福祉センターより資料1及びリーフレット「誰でもゲートキーパー手帳」に沿って説明を行った。

また、資料の訂正を行った。(資料1、P1「令和3年(暫定値)は105人」「令和元年と比較すると31人多い」)

<意見等>

なし

(2) 第2次相模原市自殺総合対策の推進のための行動計画の進行管理と自殺総合対策の推進について

ア 庁内の取組状況について

事務局より資料1及び資料2-1に沿って説明を行った。

<意見等>

(会長) ICTの活用として、現時点ではどのような取組があるのか。

(事務局) 様々な相談窓口をまとめて市のホームページに掲載している。

(会長) リブちゃんネルのことか。

(事務局) そうである。また、研修の動画についても掲載している。

イ 関係機関・団体等の取組状況について

事務局より資料2-2に沿って説明を行った。

<意見等>

(会長) 自身が所属している神奈川県司法書士会では、令和2年度はコロナ禍に適応できず、研修等を実施することができなかったが、令和3年度には研修や相談会等をオンライン等で実施することができた。本協議会の委員の関係団体においても、同様の状況だと推察する。

(和泉委員) 自死遺族の位置付けについて。1件の自死において、家族等4～5人の遺族がうまれると言われており、令和3年の相模原市の自死者が105名とすれば、大体420～525人程度の遺族がうまれているということである。

コロナの流行により、全国自死遺族総合支援センターで実施している電話相談の相談件数は増加しており、令和4年1月～6月までの相談件数は146件である。主に精神的な支援に関する相談を担っており、子育てに関する相談にも応じている。

また、自死遺族支援弁護団でも電話相談を実施しており、主に法律相談を担ってい

る。夫の自死により生活の目途が立たない、いじめにより子どもが自死したが真相を知りたい等の相談に応じている。

資料2から、自死遺族に対する支援の量や質的な部分について更に検討する余地があるのではないかと感じる。自死遺族は世間から誤った倫理的非難を受けることがあり、例えば、命を大切にしろ、という言葉が行き過ぎてしまうと、自死した方は命を粗末にした、といった誤った認識を与える可能性がある。また、親の育て方が悪い等の誤解を生じさせることもある。通常の相談窓口でそれらの苦しみに寄り添うことは難しい場合が多く、自死遺族への支援は、高い専門性が求められており、全国的な相談窓口として全国自死遺族総合支援センターがあり、弁護士会、司法書士会等もある。相談の受け皿が見つかりにくい、という課題に対しては、各機関にて相談窓口の周知を各自行う必要がある。また、通常の相談窓口でも自死遺族の相談に対応できるよう、相談員に対して自死、特に自死遺族に関する知識を得るための研修を実施する必要がある。ゲートキーパーは自殺予防という位置づけだが、必ずしも予防に限る必要はなく、自死遺族支援のためにゲートキーパーが活躍することもあるのではないかと感じる。そのため、ゲートキーパーが自死遺族について予め研修等で学ぶことも検討されたい。

(早坂委員) 労働者の1年目は特にメンタル不調を起ししやすい。自身も衝動的になってしまう瞬間を経験したことがある。そのため、小田急電鉄の取組にある「ホームドアの設置」については、一旦立ち止まるきっかけとなり、良い取組ではないかと考える。

(3) 第3次相模原市自殺対策総合対策の推進のための行動計画策定の検討方法について

事務局より資料1に沿って説明を行った。

<意見等>

(星委員) 職場や高齢者に対しての取組は充実しているが、若者に特化した取組が少なく感じる。そのためには若者や子どもに対しての調査が必要ではないかと考える。

(和泉委員) 新しい課題として、インターネット上での誹謗中傷、自死で亡くなった後の噂等、特にSNS関係のトラブルが挙げられる。今後、インターネットトラブルについて情報収集することは、将来的なことを考えても必要ではないかと考える。

(会長) 今出た意見を踏まえ、第3次相模原市自殺総合対策の推進のための行動計画策定を検討することとしてよいか。

(委員) 異議なし。

(4) 市民アンケートの調査結果について

事務局より資料1、資料3及び冊子「こころの健康に関するアンケート調査」

に沿って説明を行った。

<意見等>

(早坂委員) 資料1、P13「勤務問題」について。20代女性が74.4%と高い数値を示しているが、どのように分析しているのか、また、40代、50代の母数が113であることから、勤務形態(常勤かパートか)とのクロス集計を行っているのか教えていただきたい。

また、「学校問題」について40代女性が多い。その分析について教えていただきたい。

(事務局)「勤務問題」の20代女性の分析について。クロス集計をする際、母数が最低100ないと信頼に値するものではないと言われている。今回、20代女性の母数が少なく、そのことが結果に影響している可能性はあると推測する。

勤務形態について。細かく分類してしまうと、信頼性をもたない数値となってしまうため、今回は分析していない。

40代女性の「学校問題」について。コロナ禍で学校が休校になったが、小中学生の親の世代が40代に当たると考える。そのため他の年代よりも高い数値がでていると推測する。

(会長) 10代に対してアンケートをとるのは困難だったのか。

(事務局) 10代に対し「自殺」という言葉のある調査に回答することへの負担等を考慮し、検討した結果、10代は調査対象者とししない判断をした。

(西岡委員) 資料3、P24「困っている人」というのは、どのような人を対象としているのか。

(事務局)「困っている人」とは、具体的な場面や状況を想定しているものでない。質問の意図としては、声をかけて助けたいという気持ちの有無について尋ねている。

(平委員) 資料1、P15「学校での「いのちの教育」の充実」について。社会の期待が込められた結果だと受け止めている。義務教育内の教育で重要なのは、未然防止と早期発見と考える。学校では、道徳、人権教育、いじめ防止等それぞれ必要な教育を行っている。人権月間、いじめ防止月間では教育委員会と連携し市全域の小中学校でリーフレットや資料を配布し、各学校、学年で具体的な取組をするよう働きかけている。

10代に対するアンケートの話題が出たが、小中学校では「いのち」や「自殺」といった言葉を入れたアンケートは行わない。ただ、定期的に生活アンケートを実施したり、聞き取り、個人面談等で個々の子どもに寄り添い、子どもの困り感を捉えている。その中で不登校、児童虐待、ヤングケアラー等の課題が背景にある子どもについては、他機関連携により支援している。また、毎月、欠席状況調査やいじめやトラブル等の件数について教育委員会へ報告しており、重大な事案については、行政や教育

委員会とも連携し対応している。今後も、現在の取組を継続していきたい。

(早坂委員) 資料1、P15「自殺減少のために重要だと思うこと①」とあるが、P19には「自殺減少のために重要なこと」とあり、違和感がある。表現方法について検討いただきたい。

(5) その他

精神保健福祉センターより自殺対策強化月間について説明を行った。

<意見等>

なし

<その他意見等>

(守下委員) 「いのちの教育」の充実とあるが、法事が分からない教員がいた。学校で宗教的な行事を取り上げるのは難しいと考えるが、命日がある、ということは教えることができるのではないか。そして、その命日に寄り添う遺族がいるということを学校では伝えていただきたい。

(森委員) 本日の資料について。グリーンライトアップの写真が、白黒で分からなかった。できればメールで資料をいただくか、投影する等の対応をお願いしたい。

(和泉委員) 自身も参加している自死遺族支援弁護団にて、毎週水曜日12時から17時まで無料の法律相談を実施している。最近はメール相談やLINE相談にも対応している。身近に相談が必要な方がいれば周知いただきたい。

(会長) 資料については、PCやスマホ等で見える場合もあるため、事前にメール等でいただけるとありがたい。

以 上

令和4年度相模原市自殺対策協議会 第1回会議（出欠状況）

（令和4年7月7日開催）

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	稲田 健	北里大学医学部		出席
2	西岡 直子	相模原市医師会		出席
3	土屋 敦	相模原市病院協会		欠席
4	田中 弘子	相模原市薬剤師会		出席
5	岡田 眞一郎	相模原地域産業保健センター		出席
6	平 和枝	相模原市立小中学校長会		出席
7	取住 悦子	相模原商工会議所		出席
8	早坂 淳史	日本労働組合総連合会 神奈川県連合会 相模原地域連合		出席
9	青木 亜也	神奈川県弁護士会		欠席
10	比留川 昇良	神奈川県司法書士会	会長	出席
11	戸部 恵美子	相模原市民生委員児童委員協議会		出席
12	山口 信郎	相模原市自治会連合会	副会長	出席
13	十川 いづみ	横浜いのちの電話		出席
14	和泉 貴士	全国自死遺族総合支援センター		出席
15	星 潤人	公募		出席
16	守下 高子	公募		出席
17	能沢 日世志	相模原公共職業安定所		出席
18	森 俊行	神奈川新聞社		出席
19	加藤 智也	相模原警察署		出席